Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称［英語名称］	子ども教育入門ゼミ ［Introduction Seminar in Child Education］			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	園田 博一			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）｜（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）｜（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）｜ また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）｜2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）｜
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	宮内 孝			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）｜（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）｜（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）｜ また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）｜2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）｜
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	遠藤 晃			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	早川 純子			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)—リーディング—【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)—リーディング—【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	若宮 邦彦			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	趙 雪梅			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)—リーディング—【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)—リーディング—【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	金子 幸			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	福富 隆志			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)—リーディング—【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)—リーディング—【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami　Kyushu　University　Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称［英語名称］	子ども教育入門ゼミ ［Introduction Seminar in Child Education］			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	藤本　朋美			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）｜（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）｜（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）｜ また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）｜2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）｜
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]				実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	野村 宗嗣				学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	山田 裕司			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)—リーディング—【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)—リーディング—【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	酒井 喜八郎			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	田中 直美			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	瀬戸口 裕二			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)—リーディング—【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)—リーディング—【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科	
科目名称 [英語名称]	子ども教育入門ゼミ [Introduction Seminar in Child Education]				実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	園田 博一				学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)—ノート・テイキング—【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)—リーディング—【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)—リーディング—【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する—図書館・インターネットを使った情報収集と整理—【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)—アカデミック・ライティングの基礎—【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)—アカデミック・ライティングの発展—【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)—プレゼンテーション—【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)—ディスカッション—【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）|（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）|（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ—（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）| また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）|2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）|
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科	
科目名称［英語名称］	子ども教育入門ゼミ ［Introduction Seminar in Child Education］			実務経験教員担当	アクティブラーニング	○
科目コード	750112	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	本田 和也			学位授与の方針との関連	DP1(2) DP2(2)	

授業概要	本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。 大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとすることを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。
授業の進め方と方法	基礎的な学修技術（7種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×7）となる。【前半】基礎的な学修技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。【後半】基礎的な学修技術に関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）で出された課題の提出を求める。
授業計画	第1回：オリエンテーション【講義概要の説明、日程確認】 「生徒」と「学生」の学び方の違いを理解し、「大学で学ぶ」ための学修技術の全体像を掴む 第2回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【解説・課題提示】 第3回：聴く・読む(1)―ノート・テイキング―【実践指導】 ノート・テイキングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第4回：聴く・読む(2)―リーディング―【解説・課題提示】 第5回：聴く・読む(2)―リーディング―【実践指導】 リーディングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第6回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【解説・課題提示】 第7回：調べる・整理する―図書館・インターネットを使った情報収集と整理―【実践指導】 情報収集の必要性や資料の種類や分類を理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第8回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【解説・課題提示】 第9回：まとめる・書く(1)―アカデミック・ライティングの基礎―【実践指導】 アカデミック・ライティングの基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第10回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【解説・課題提示】 第11回：まとめる・書く(2)―アカデミック・ライティングの発展―【実践指導】 分かり易い文章や表現（図表）のポイントを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第12回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【解説・課題提示】 第13回：表現する・伝える(1)―プレゼンテーション―【実践指導】 プレゼンテーションの種類や特徴、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む 第14回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【解説・課題提示】 第15回：表現する・伝える(2)―ディスカッション―【実践指導】 ディスカッションの進め方やマナー、基本スキルを理解し、課題を基に指導を受け、改善への見通しを掴む
授業の到達目標	1.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3.「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
授業時間外の学修	【予習】（解説前）教科書から次回の解説範囲を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。 【復習】（解説後）学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法	（オリエンテーション）出席時の提出物及び受講態度から判断する（2点）｜（解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×7回＝28点）｜（実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×7回＝70点）
テキスト	1.学習技術研究会 編著「知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―（第4版）」（くろしお出版、¥1800＋税）｜ また、必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1.山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」（山形大学出版会、¥800＋税）｜2.藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」（北大路書房、¥1900＋税）｜
備考	